

育成を目指す資質・能力

・既習の図形の性質についての理解を深め、数学的な表現を用いて論理的に説明することができる。

ICT活用のポイント

- ・集団思考の場面において、多くの考えを瞬時に共有でき、自らの考えを広げる機会となる。
- ・振り返りノートデータを蓄積することで、個人の気づきや成長の過程を教師が把握しやすくなる。

1 本時の課題を知る

2 個人思考

3 集団思考

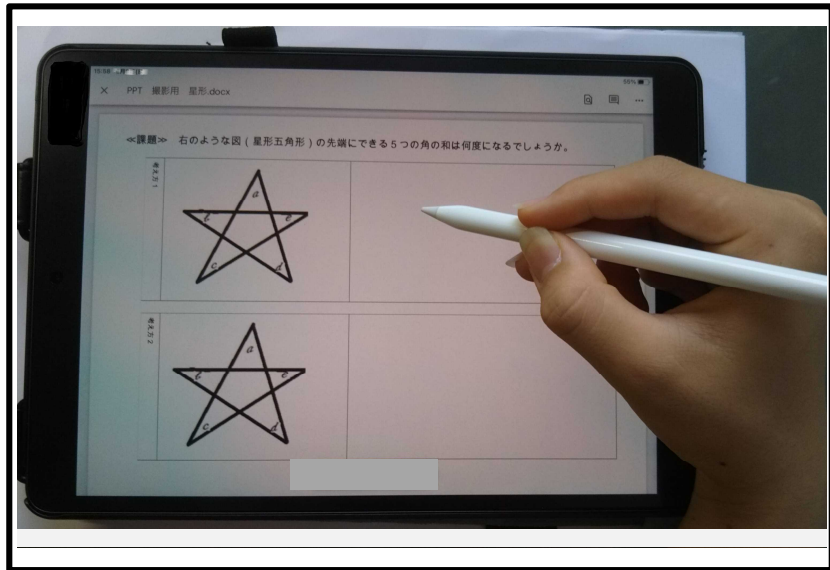
4 振り返り

事例の概要

- 1 星形五角形の先端にできる5つの角の和が何度になるかを考える。はさみや分度器を使い5つの角の和が180度であることを確認させる。どんな星形五角形でも先端にできる5つの角の和が180度になるかが本時の課題である。
- 2 個人思考では、複数の星形五角形が書かれているワークシートをICT端末に一斉配布し、自らの考えを他者へ伝えられるよう、図に考えや使う性質を書き込ませる。
- 3 集団思考の場面では、ICT端末で、ファイル共有機能を使い多様な考えを知る。また、どのような性質を使い考えたかを他者に説明をする。他者の考えを聞き1つでも多くの考え方を獲得させ、分からないことは質問させる。また、多くの生徒が難しさを感じたものについては、全体で共有し改めて考えさせてから解決策を出し合わせる。
- 4 振り返りの場面では、「振り返りノート」をICT端末に一斉配布し、自分のワークシートや板書等から本時の学習内容を振り返り、疑問点やこれまでの学習事項との関連性などを記入させる。

中学校・数学科・第2学年・図形の調べ方、平行と合同②

【個人思考の場面でのICTの活用】



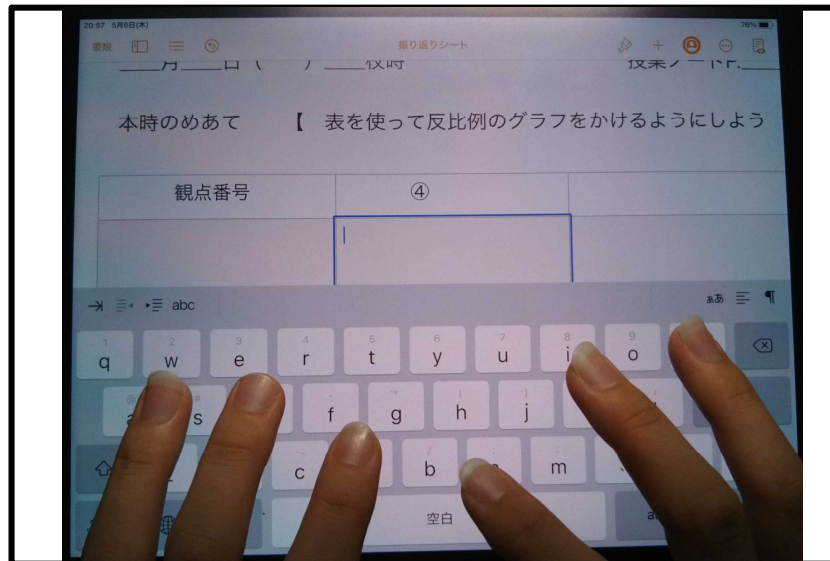
《個人思考の場面でのICTの活用》

- 既習事項だけでなく図や式などを入力することにより、他者が考えを読み解きやすくなる。
- ICT端末に配布された図形に、考えを書いたり消したりしやすく紙面で考えるより取り掛かりやすい。

《集団思考の場面でのICTの活用》

- ファイル共有機能を使い瞬時に多くの生徒の考え方を共有することができ、様々な考え方を基に進めることができる。
- 考え方を他者へ説明をする時にタッチペンを使い、角の部分に色を付けたりすることにより、説明の補助になる。
- 図を拡大することも容易で、他者へ説明をする時に、全体図からだけでなく、部分的な説明の補助になる。

【事例におけるICT活用の場面②】



《振り返りの場面でのICTの活用》

- 文書作成ソフトを使い提出させることにより、個人の気付きや成長の過程を教師が瞬時に把握でき細部まで読み取ることができる。
- 振り返りノートデータを蓄積することにより生徒自身が考え方の変容を実感し、次回の授業へつながり意欲をもつことができる。
- 教師はクラス全員の振り返り記述を容易に集約ことができ、次時の授業の導入として、生徒の振り返りで記入したことを紹介することができる。
- デジタル版のポートフォリオとして活用でき、いつでも生徒全員の振り返りが確認できる。

【活用したソフトや機能】 文書作成ソフト、ファイル共有機能